



2021. 6. 30

のびるほとっ子!

もっと ほっと ずっと

横浜市立保土ヶ谷小学校

コロナ禍でも変わらないもの・・・

副校長 内田 宏

晴天が続く、日ごとに暑さが増してきました。熱中症への備えが必要な時期です。子どもの健康を第一に考え、温度・湿度・天気に応じたマスクの着脱や水分補給を心がけて授業や行事を進めています。新型コロナウイルス感染症予防についても、ワクチンの接種が始まるなど、明るい兆しが見えてきているものの、変異株の発生や、医療体制のひっ迫など、今後も感染対策を続けていく必要があります。

5/29(土)は今年度初めて全校児童が一堂に集い、『スポーツ祭』を実施することが出来ました。各学年、ソーシャルディスタンスを確保した競技・演技を考案するなど、感染予防対策をとった上で、徒競走、2学年合同の団体競技と表現運動に取り組みました。当日は、保土ヶ谷小の子どもらしく友だち同士互いに認め合いながら、スポーツ祭に一生懸命取り組む姿を見ることができました。5年生・6年生は「開閉会式・テーマ」「応援」「マスコット制作・採点」「用具」「PR・決勝審判」「放送」の係も担当し、スポーツ祭の運営にも大きく貢献しました。たとえコロナ禍のスポーツ祭であっても、子どもたちの前向きな気持ちは変わりません。「赤白みんなで協力だ!勝利を目指して一直線!」というスローガンのもと、これまでと同じようにエネルギッシュなスポーツ祭となりました。子どものエネルギーと共に、学校に活気があふれてくるように感じました。

また、6月には授業参観を実施することができました。昨年度は実施できなかった2年ぶりの授業参観です。友だちと考えを交換し合ったり、学んだことを自身の言葉で発したりする変わらない子どもたちの姿をご覧いただけたのではないかと思います。一方子どもの学習について、大きく変わったことがあります。それは、一人に一台ずつのタブレット型端末機が各教室に用意されたことです。このタブレットが毎日、どこかの学級で学習に活用されています。先日も2年生が、1年生に保土ヶ谷小の様々な場所やきまり等を紹介するビデオを作ろう(生活科)と、タブレットで動画を撮影し、編集していました。3年生では「横浜市にある18区を調べよう(社会科)」と、本を取り出すかの如く自分のタブレットを取り出し、それぞれが自身のねらいに沿って検索をし、調べたことを整理していました。空間を超えて情報を収集したり、学びの質を高めたりしながら、知識を獲得し、一層の思考力を身に付けつつある子どもたちの姿を垣間見ることができます。

保護者の皆様には、各ご家庭1名の参観や、分散による授業参観など、大変ご不便をおかけしているにもかかわらず、学校を取り巻く状況をご理解いただき、コロナ禍の学校運営にご協力いただいております。学校は感染予防の観点から、登下校の見守りをはじめとする各種ボランティアの積極的な依頼をしかねる状況です。そのような中、校外委員長を中心に「できる方が、できる時に・・・」を合言葉に、登校時を中心に可能な範囲でブルーのベストを羽織った保護者の方々による見守りが、人づてに広がりつつあります。また、学援隊の皆様・野村不動産ライフ&スポーツの皆様には、雨の日も暑い日も子どもたちの登下校を見守っていただいております。コロナ禍でも変わることはない本校の子どもたちへの温かな気持ちや、学校運営に対するご理解とご支援に、改めて感謝申し上げます。

どんな時代においても学校は、変わることのない前向きな子どもたちの気持ちや意欲を受け止め、学びを進める場であるべきと考えています。保土ヶ谷小には、子どもたちを受け止め、支えてくださる保護者・地域の皆様がいっぱいます。私たち教職員は、「感染防止対策を徹底し、子どもの学びを止めない。」を基本に、これからも子どもたちの学びを進めていきたいと思っています。